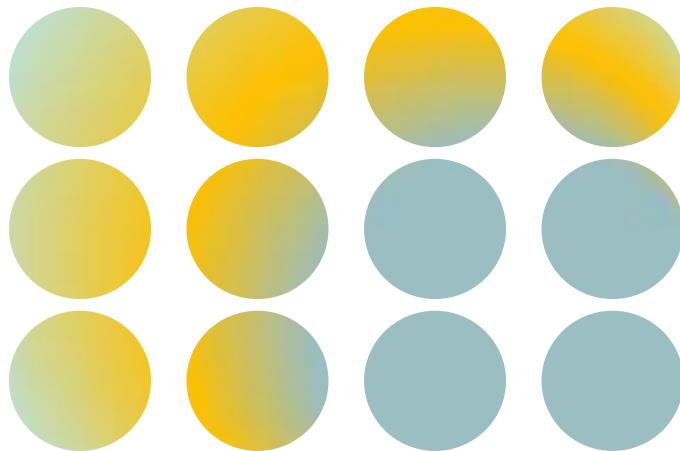


学校教育に対する保護者の意識調査

—Benesse教育研究開発センター・朝日新聞社共同調査—

シンポジウム報告資料

2008. 9. 27 Sat.



Benesse® 教育研究開発センター

Benesse Educational Research & Development Center

◆調査実施の経緯

◆Benesse 教育研究開発センター

- ・ベネッセコーポレーションの教育シンクタンク
 - ・子ども／保護者／教員の意識・行動に関する調査研究
 - ・子どもに必要な能力・スキルやその育成・測定に関する研究
 - ・ＩＣＴなどの機器を利用した新しい学習方法に関する研究
 - ・英語の習得や英語教育の実態に関する調査研究

◆調査実施の経緯

- ・2002年学習指導要領の改訂
 - ・学力低下不安、学校不信の高まり
 - ・保護者は学校教育をどのように評価し、何を期待しているのか？

継続して変化をとらえられる調査がない

地域や保護者の属性による違いを分析できる調査がない

- ・2003年に朝日新聞社と共同調査を企画

◆本日の報告内容

◆報告の流れ

1. 結果から見えること（まとめ）

2. 調査の概要

3. 調査結果

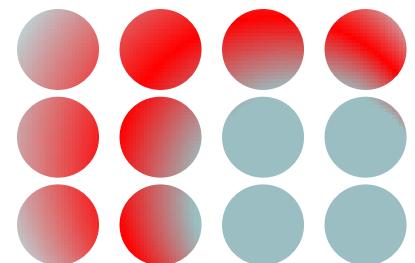
Part① 学校教育に対する意識

Part② 教育改革に対する意識

Part③ 教育費の使用状況

4. 結果から見えること（再掲）

1. 結果から見えること



◆結論

①学校に対する満足度が高まった

- ・とくに、今まで満足度が低かった属性で高まった
中学生の保護者、高学歴の保護者、都市部の保護者など

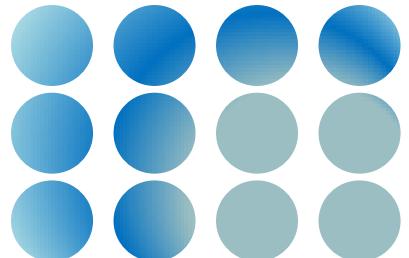
②教育改革を求める意識がダウンする傾向がみられる

- ・改革に対して冷静になっている
小学校英語、学校選択制、学校評価に対する「賛成」の減少
- ・その中で、全国学力テストの賛成が高まっている

③学校外の教育費支出が増えた

- ・4年前に比べると、属性ごとの差が拡大した
- ・学校に対する「満足」が増えた属性で教育費支出が増えている

2. 調査の概要



◆調査対象・サンプル数

◆全国の小学2年生、5年生、中学2年生をもつ保護者

- 回答者の9割は母親
- 都道府県庁所在地、その他の市部、郡部に分けてサンプリング
- 地域に偏りがあるため全国の平均値とはいえない
- 同じ学校に調査を協力いただくことで経年変化をとらえる設計

◆調査の枠組み

2004年調査

- 協力校：小26校、中20校
- 配布数：8,503名
- 回収数：6,288名
- 回収率：74.0%

このうち継続実施校のデータを抽出

小17校(2,495名)
中14校(1,515名)

2008年調査

- 協力校：小21校、中19校
- 配布数：6,901名
- 回収数：5,399名
- 回収率：78.2%

このうち継続実施校のデータを抽出

小17校(2,782名)
中14校(1,603名)

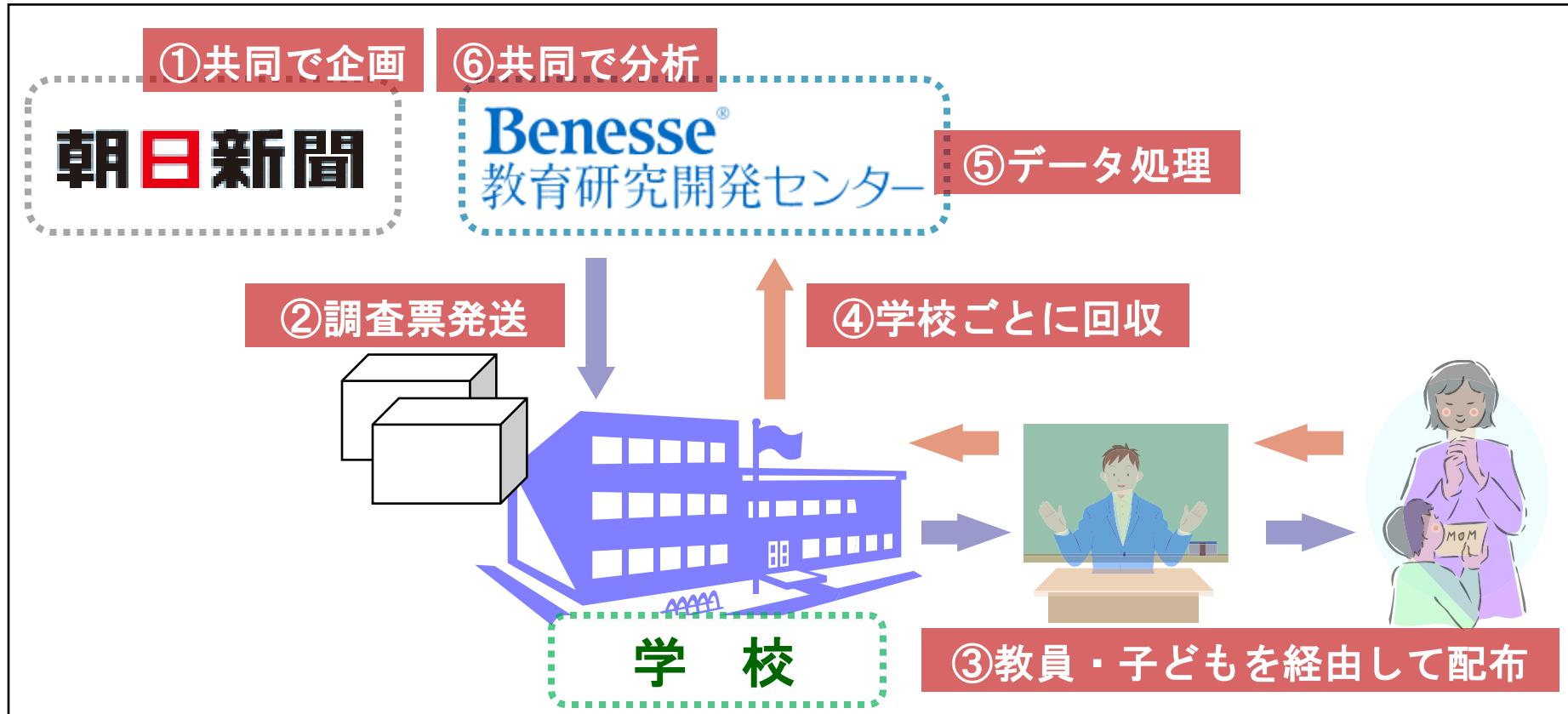
比較

◆調査方法

◆学校通しによる自記式質問紙調査

- ・教員・子どもを経由した配布・回収
- ・無記名式、糊づけ封筒に入れて回収

◆調査の流れ



◆調査内容

●2002年学習指導要領改訂の定着・影響

- ・学校週5日制、絶対評価、総合的な学習、習熟度別指導に対する意識 など

●学校教育に対する意見

- ・国と地方の役割、学校間の競争、教科書のレベル、教育格差の問題 など

●学校・学校外教育に対する期待と満足

- ・教科の学習指導、学習以外の活動、学校参加、習い事・教育費 など

NEW

+

●次期の学習指導要領に対する意識・賛否

- ・授業時数の増加、総合学習の削減、知識と活用、教育予算の配分 など



4年間の経年での変化をとらえるとともに
次の指導要領改訂後の意識も継続的にとらえられる設計

◆教育動向の確認

2002年 現行学習指導要領の実施……授業削減、週5日制、総合学習
学びのすすめ……確かな学力向上のためのアピール
 学力向上のための施策導入「**学力向上フロンティア事業**」

学力低下論争

ゆとり教育

第1回
調査

2003年 学習指導要領の一部改訂……**学力重視の明確化**

2004年 PISA2003の結果発表…学力低下傾向

2005年 文科省「**読解力向上プログラム**」発表

2006年

2007年 **全国学力・学習状況調査**の実施

2008年 次期学習指導要領の告示…**授業増加、学習内容の復活**

2009年 次期学習指導要領・移行措置期間

2010年

2011年 小・次期学習指導要領の実施……**授業増加、英語導入**

2012年 中・次期学習指導要領の実施……**授業増加**

教育不安の高まり

学力向上施策

第2回
調査

満足度の上昇

新課程

第3回
調査

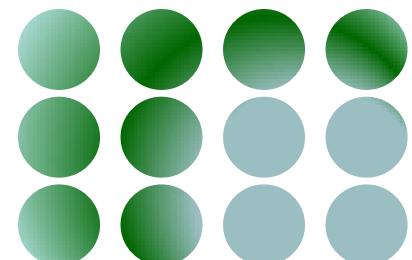
?

3. 調査結果

Part① 学校教育に対する意識

Part② 教育改革に対する意識

Part③ 教育費の使用状況



◆学校に対する満足度が上がっている

◆図1：学校に対する満足度（総合的に見て）

①小学生保護者



②中学生保護者



◆都市部や大卒層の満足度が上昇

◆表1：学校に対する満足度（総合的に見て）

①地域別

「とても満足している」と「まあ満足している」の合計（%）

| | 2004年 | 2008年 |
|----------|-------|----------------------|
| 都道府県庁所在地 | 63. 7 | 11. 5pt. アップ → 75. 2 |
| その他市部 | 74. 7 | 78. 2 |
| 郡部 | 80. 2 | 74. 1 |

②母親の就業別

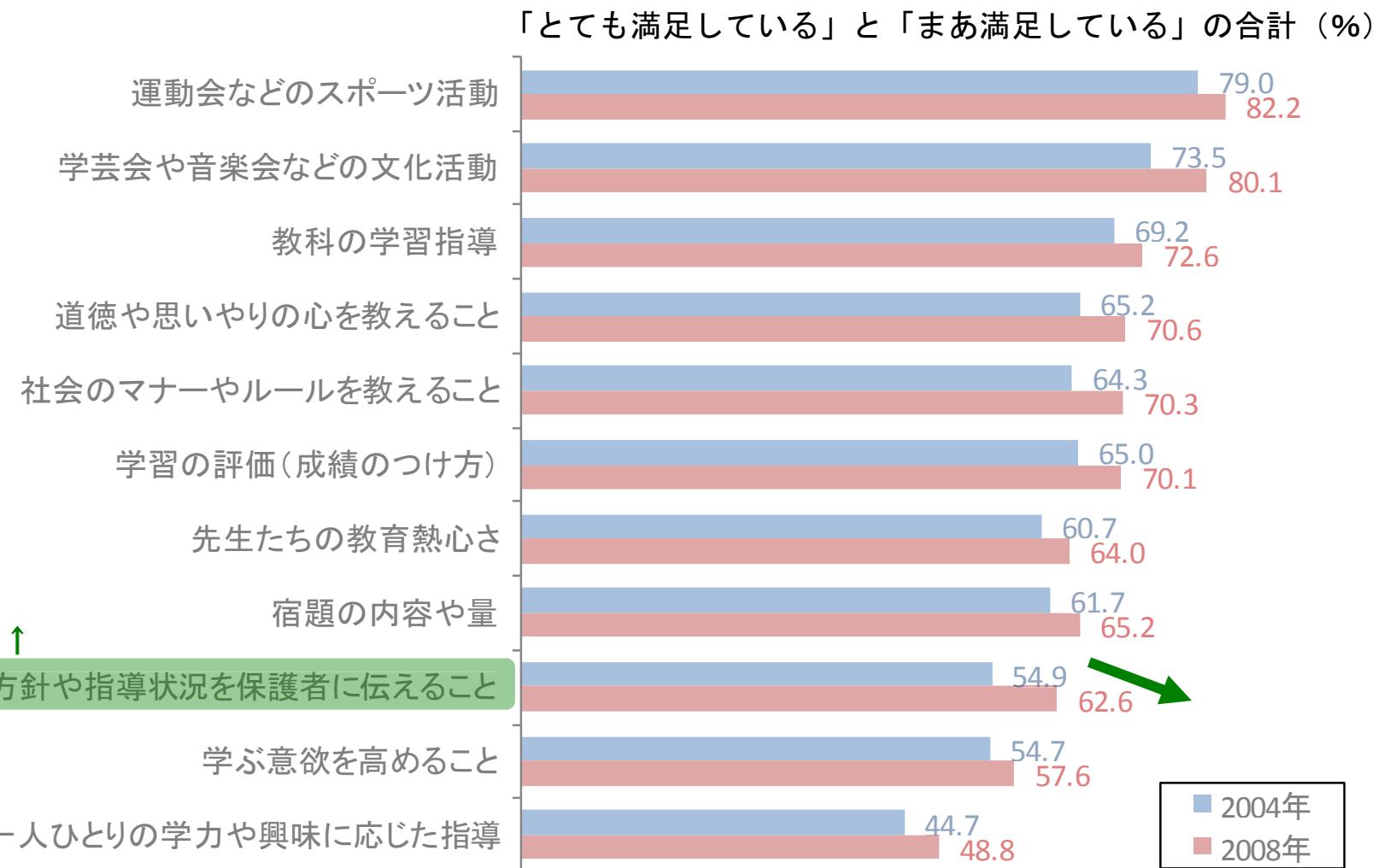
| | 2004年 | 2008年 |
|-----------|-------|---------------------|
| 専業主婦 | 71. 5 | 5. 5pt. アップ → 77. 0 |
| パート・アルバイト | 72. 7 | 77. 0 |
| 常勤 | 74. 9 | 76. 6 |

③学歴別

| | 2004年 | 2008年 |
|----------|-------|---------------------|
| 父母ともに非大卒 | 73. 7 | 76. 0 |
| 父母ともに大卒 | 70. 2 | 5. 6pt. アップ → 75. 8 |

◆情報伝達に対する評価が大きく上昇

◆図2：取り組みに対する満足度

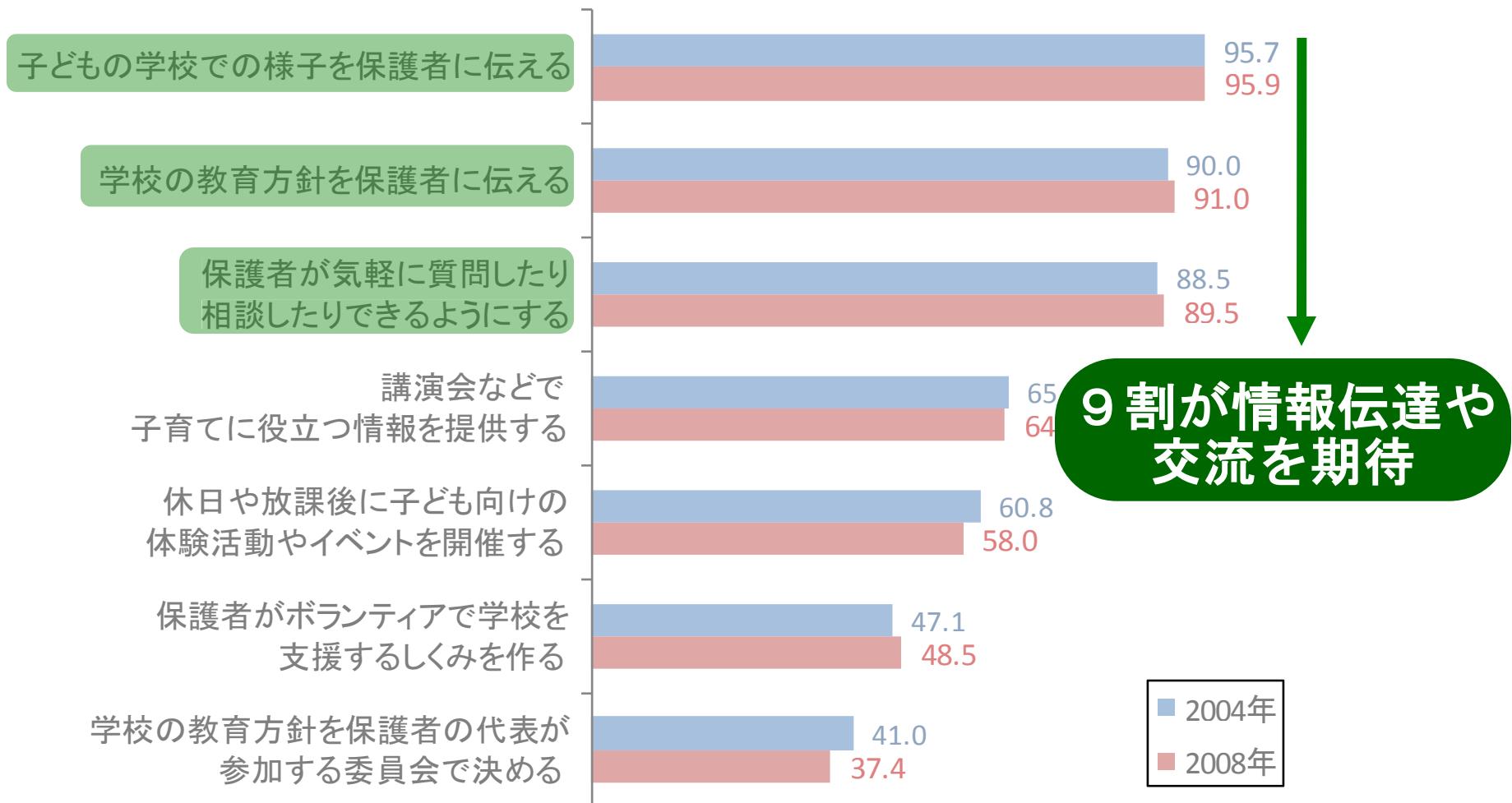


ほとんどの項目で満足度が上昇

◆保護者は情報伝達を強く望んでいる

◆図3：学校に対する保護者のニーズ

「とても望む」と「まあ望む」の合計 (%)



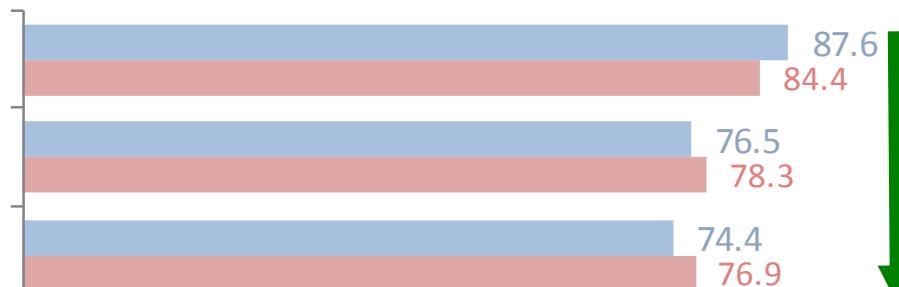
◆学校・教員に対する温かいまなざし

◆図4：教育の変化に対する意識

子どもの変化

- 子どもたちの道徳心や公共心がうすれている
- 子どもたちの学習意欲が低下している
- 子どもたちの学力が低下している

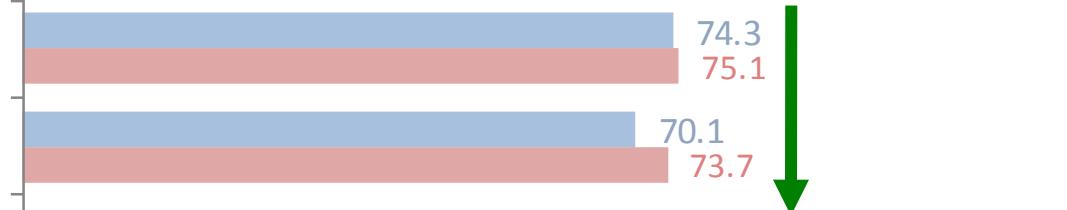
「とても感じる」と「まあ感じる」の合計 (%)



厳しい見方

家庭の変化

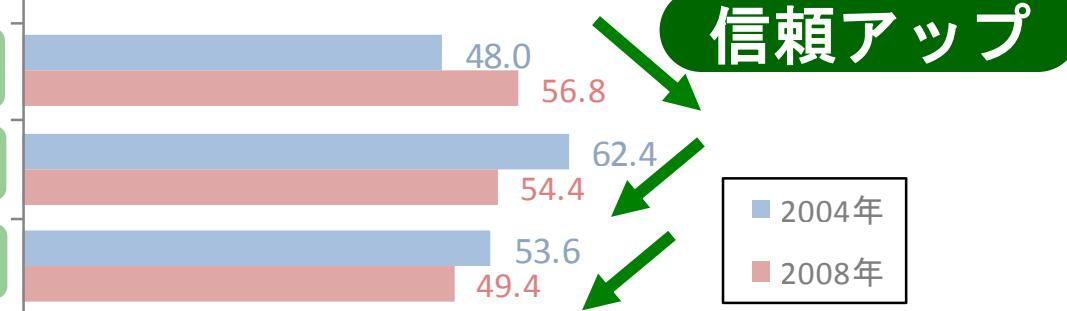
- 家庭の教育力が低下している
- 学校に協力的でない家庭が多い



学校の変化

- 学校の先生は信頼できる
- 学校は一人ひとりに応じた教育を行なっていない
- 先生の教える力が低下している

信頼アップ



マイナス評価の改善

◆満足度が高まったのはなぜか？

◆学校に対する満足度が高まっているのは、

- ①中学生の保護者
- ②都市部の保護者
- ③専業主婦
- ④大卒層

2004年調査で満足度が低かった属性の人たちが
2008年調査で満足度を高めた



結果的に、小中格差、地域格差、家庭の文化格差が縮小している！
学校に対する信頼が高まり、ネガティブな評価が減っている！

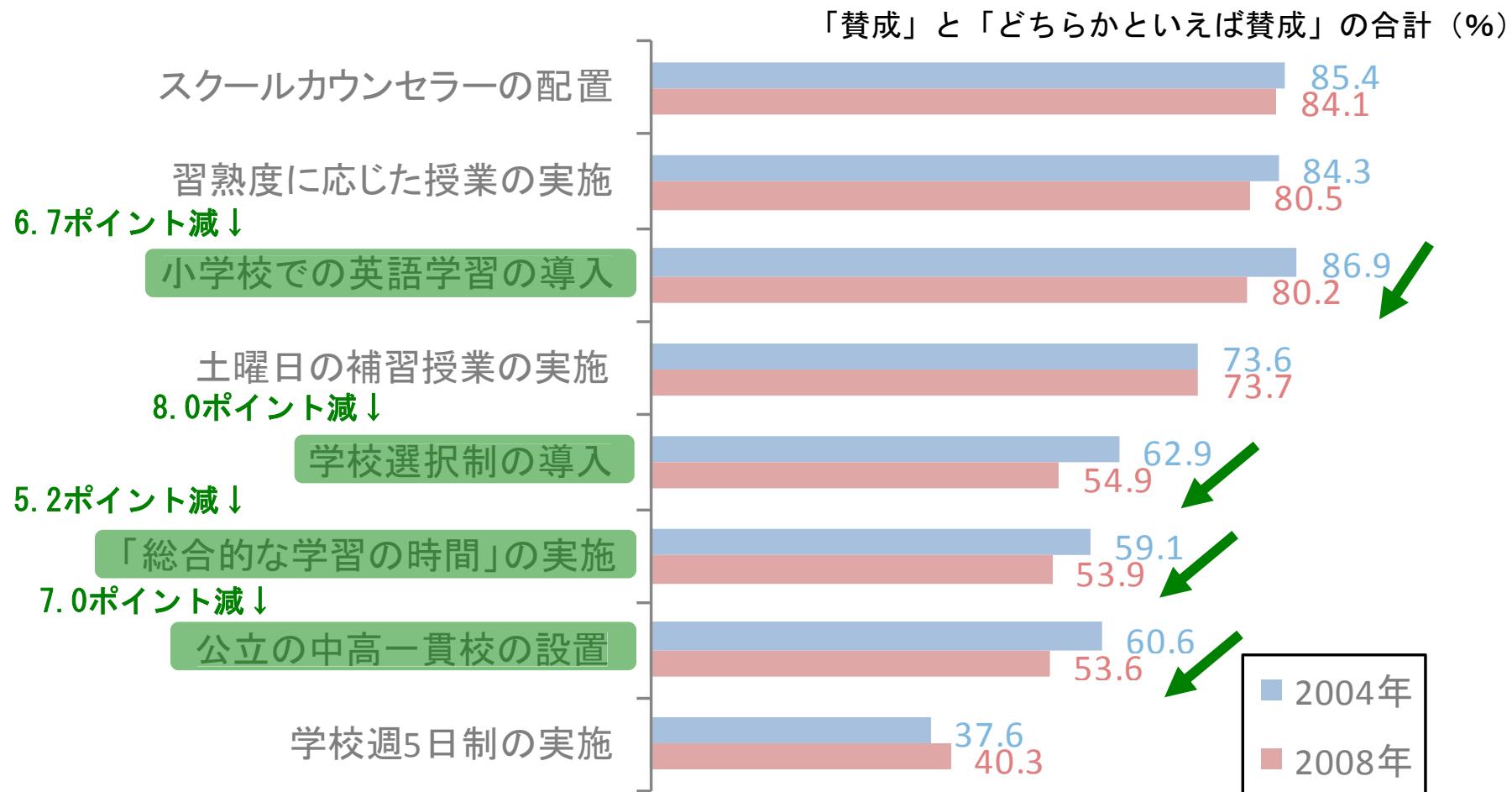
なぜだ!?

学校選択制
の影響？

- ①都市部の学校ほど保護者への情報提供を熱心に行った
- ②学校からの働きかけに敏感に反応する層と反応しない層がいる
→都市部の保護者、専業主婦、大卒層は学校からの働きかけに敏感に反応

◆小学校英語、学校選択制は賛成が減少

◆図5：教育改革に対する賛否①



賛成多数の項目が多いが
賛成の比率は低下傾向

都市部や大卒層に
賛成低下の項目が多い

◆全国学力テストの賛成が増加

◆図6：教育改革に対する賛否②

全国学力テストについて

県や全国規模の標準学力テストを実施する

学校ごとに標準学力テストの結果を公開する

指導方法について

1クラスあたりの子どもの人数をもっと少なくする

理解の早い子どもにはさらに高いレベルの学習をさせる

学力の高い子は飛び級ができる制度を作る

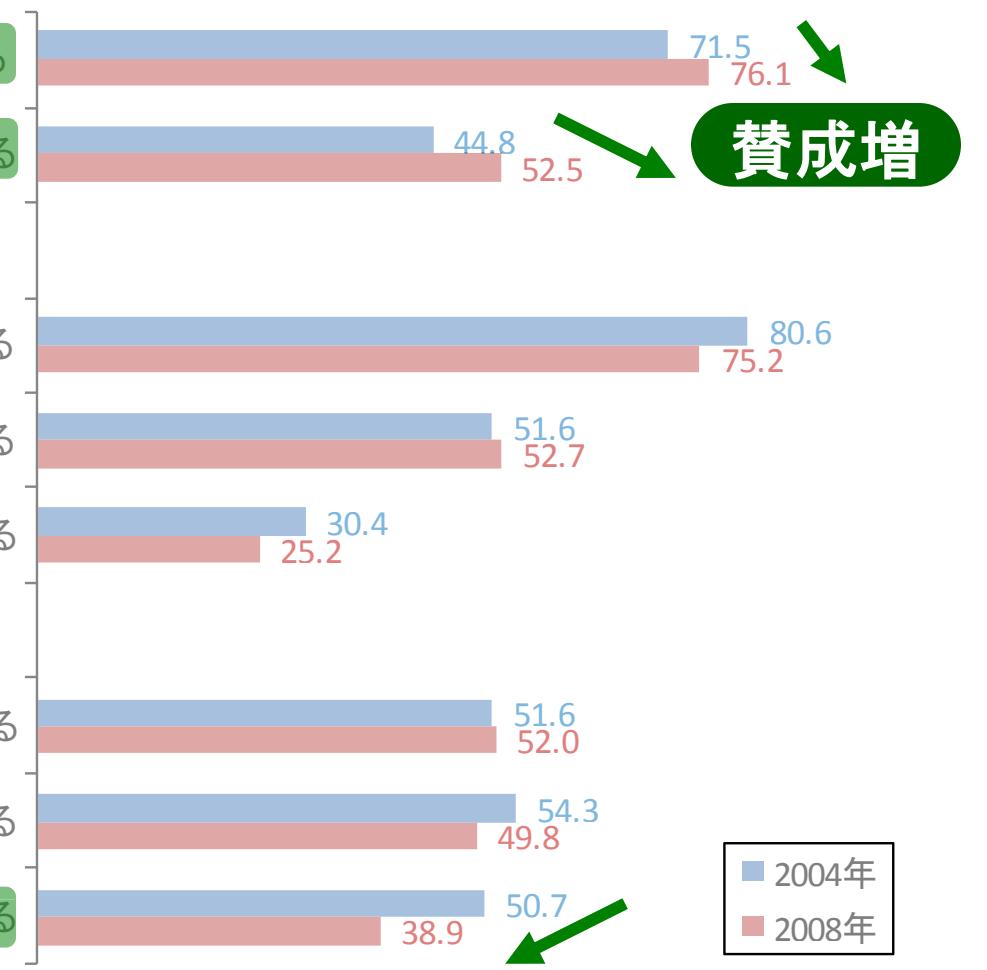
学校評価について

教師・保護者以外の人や外部機関が学校を評価する

先生の実力を評価して、給与や人事に反映させる

子ども・保護者が学校や先生を評価する

「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計 (%)



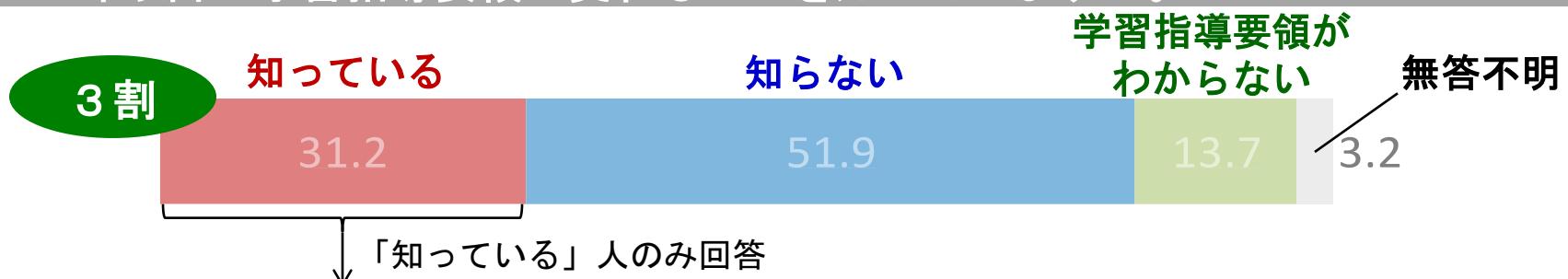
■ 2004年
■ 2008年

賛成増

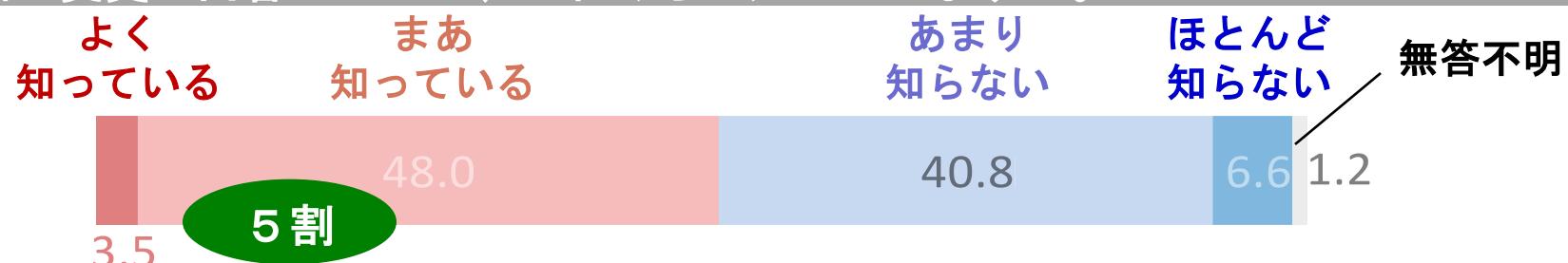
◆指導要領の改訂を知っているのは3割

◆図7：学習指導要領の改訂に対する認知

①2011年以降に学習指導要領が変わることを知っていますか。

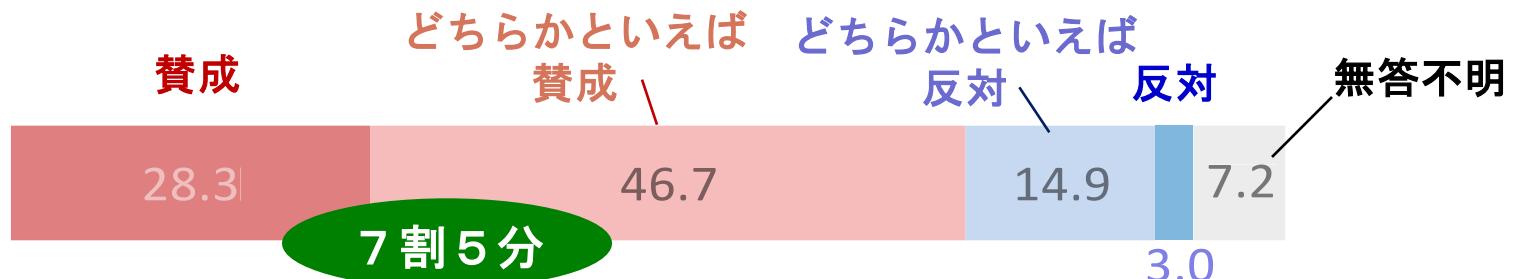


②今回の変更の内容について、どれくらい知っていますか。



すべての人が回答

③次の学習指導要領では授業時間が増えますが、あなたは賛成ですか。



◆改革の賛否は内容により傾向が異なる

◆学校選択制、小学校英語

- 賛成が減少しているが、過半数は賛成している
- 選択制は都市部、小学校英語はゆとり層、大卒層などで賛成が減少
→選択制は導入エリアで、課題が見えてきた?
→小学校英語は、学校外で習わせている保護者には不満?

◆公立中高一貫校の設置

- 賛成が減少しているが、過半数は賛成している
- その他市部での賛成が減少した
→県庁所在地にあることが多く、それ以外の市からは通学できない?

◆学校評価

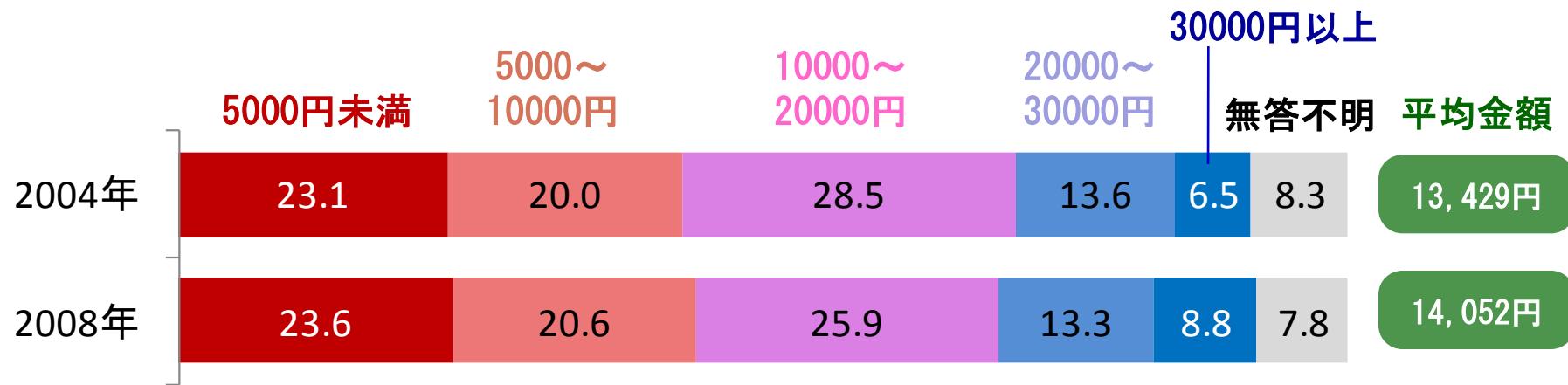
- 賛成が減少して過半数割れ
- 全体にどの属性も賛成が減少している

◆全国学力テスト

- 賛成が増加し、結果公開についても過半数が賛成に
- 小学校の保護者の賛成増加が目立つ。都市部ほど賛成する傾向。
→客観的評価が少ない小学生保護者にニーズあり?

◆教育費の支出が増えている

◆図8：教育費（1人・ひと月あたり）



◆表2：教育費（学年別）

| | 2004年 | 2008年 | 変化（08年－04年） |
|-------|---------|---------|-------------|
| 小学2年生 | 10,002円 | 10,259円 | +257円 |
| 小学5年生 | 12,795円 | 13,870円 | +1,075円 |
| 中学2年生 | 16,762円 | 17,378円 | +616円 |

小5の増加が大きい

◆東京や大卒層で教育費の支出が増えている

◆表3：教育費（東京－東京以外）

| | 2004年 | 2008年 | 変化（08年－04年） |
|-------|---------|---------|-------------|
| 東京都 | 15,957円 | 16,944円 | +987円 |
| 東京都以外 | 12,985円 | 13,276円 | +291円 |

東京で増加

◆表4：教育費（学歴別）

| | 2004年 | 2008年 | 変化（08年－04年） |
|----------|---------|---------|-------------|
| 父母ともに非大卒 | 10,871円 | 11,324円 | +453円 |
| 父母ともに大卒 | 18,479円 | 19,869円 | +1,390円 |

大卒層で増加

◆表5：教育費（生活のゆとり別）

| | 2004年 | 2008年 | 変化（08年－04年） |
|--------|---------|---------|-------------|
| ゆとりがある | 16,065円 | 17,228円 | +1,163円 |
| ゆとりがない | 11,720円 | 12,251円 | +531円 |

ゆとりあり層で増加

◆教育費の格差が拡大した

◆教育費の支出が多いのは…

都市部、大卒層、生活にゆとりがある層の保護者



こうした保護者はこの4年でさらに支出を伸ばした

もともとあった差が、さらに拡大した

◆小5生の教育費が顕著に伸びている

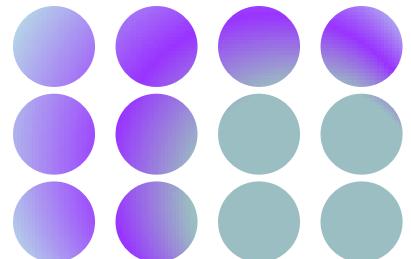
中学受験の影響ではないか？



首都圏の中学校受験率は、この4年で5.4ポイント上昇

学校満足度を高めている層が中学受験をしている可能性

4. 結果から見えること



◆結論（再掲）

①学校に対する満足度が高まった

- ・とくに、今まで満足度が低かった属性で高まった
中学生の保護者、高学歴の保護者、都市部の保護者など

②教育改革を求める意識がダウンする傾向がみられる

- ・改革に対して冷静になっている
小学校英語、学校選択制、学校評価に対する「賛成」の減少
- ・その中で、全国学力テストの賛成が高まっている

③学校外の教育費支出が増えた

- ・4年前に比べると、属性ごとの差が拡大した
- ・学校に対する「満足」が増えた属性で教育費支出が増えている

Benesse[®] 教育研究開発センター
Benesse Educational Research & Development Center